

ビジネスのアイデア、無料
であげます！



幻想まじない師



目次

まえがき	1
その 1	2
その 2	6
その 3	9
その 4	12
その 5	15
おまけ	18

まえがき

まえがき

この電子書籍は、ぼく（幻想まじない師）がブログに書いたビジネスのアイデアをまとめたものです。

このまえがきを付け足した以外には、いっさい変更点はありません。
自分のブログからコピペしました。

この電子書籍に書かれたビジネスのアイデア、勝手に使っていいですよ。
メンヘラのぼくがビジネスのアイデアを持っていたても、腐らすだけでしょうから。

アイデアは全部で6つ。

最後のもののみ、ビジネスのアイデアはついでに書いたものなので、少し読みにくい
と思います。

記事の終わりの日付は、ブログの記事を公開した日にちです。

なお、ぼくの考えたアイデアが既に実現されていても、当方は一切関知しません。
さらに、ぼくのアイデアで一円も儲からなかったとしても、当方は一切責任を負いません。

シンギュラリティはメッチャ近い。
それまでに、ひと儲けしたい人は、勝手にがんばるのだ！！

おっと、書き忘れるところだった。
ぼくは、生成AIに頼らずに、以降のアイデアを考えました。

2025年4月下旬

その1

ビジネスのアイデア、無料であげます！！

さて、ぼくの怪しいペンネームはさておき、ビジネスのアイデアを思いついたので、ブログで公表します。

このアイデア、無料で使っていていいですよ。

さて、そのアイデアとは.....

『この〇〇が一番売れました 20〇〇年版』

です。

具体的には、『このカップ麺が一番売れました 2023年版』や『この冷凍食品が一番売れました 2023年版』や『この化粧品が一番売れました 2023年版』という感じの電子書籍を出すのです。

ムック本スタイル、ね。

もちろん、紙の本も出します。

以降、カップ麺で説明します。

『このカップ麺が一番売れました 2023年版』で説明していきます。

その年に一番売れたカップ麺だけではなく、「北海道で一番売れたカップ麺」や「関東で一番売れたカップ麺」や「九州で一番売れたカップ麺」など地域色を打ち出して、読者にアピールです。

(ページ数が許すなら、各都道府県の売り上げベスト10を載せるべきでしょう)。

それと、その年の新商品や期間限定商品を網羅します。

これは、大学に進学や、就職で住む地域が変わった若者にウケると思います。

「あっ、この地域ではこんなカップラーメンが売れてるんだ」って感じだね。

それを、2023年版、2024年版と毎年出していくのです。

ほら、欲しくなってきたでしょ。

「毎年買うバカがいるかよ！」というお利口さんには、これで対抗します。

『このカップ麺が一番売れました 2020年代版』です。

10年に一度の総集編です。

えっ?! 「もうそういう雑誌がある」ですって!

もちろん、日経トレンドィやDIMEなど、そういう雑誌はすでにあるでしょう。

ですが、考えてみてください。

「ああ〜、2023年に限定発売になったカップラーメン、名前が出てこない、思い出せない〜」

という人がいたとしましょう。

そういう人が、わざわざ調べて雑誌のバックナンバーを取り寄せて、「あっ、このカップラーメンだった。そうだった」と確認するでしょうか?

そんな奇特な人は、今はほとんどいないでしょう。

大抵は、インターネットの検索エンジンで調べて終わりです。

ですが、その検索エンジンに『このカップ麺が一番売れました 2023年版』が引っかけたらどうでしょう。

「2023年に一番売れたカップ麺や、その年の新製品や期間限定で発売されたカップ麺が網羅されていて、1000円くらいか。よし、ポチッとな」

と買われる可能性が大です。大大大です。

先に挙げた、日経トレンドィなどでは、「バックナンバーのどれを買えばいいのかわからない」という困った事態が発生しますが、特定の商品に特化した「この〇〇が一番売れました 20〇〇年代版」では、書籍名が答えなので、そういう問題は（ほぼ）起きません。

このムック本は、古いものも売れ続けるでしょう。

「ほらほら、娘よ。お父さんは若い頃、このカップ麺を食べていたんだよ。うまかったなあ」

といった感じで。

◆以下、Q&Aです。

Q. このムック本のメリットは？

A.

- ・売り上げをメインでやるので、記事作成は簡単なはず。売り上げ上位の商品と、ユーザーの感想を載せる程度なので、新人のライターでも記事を書ける。

- ・情報提供は、商品卖りたいメーカーが積極的に協力してくれるでしょう。

- ・ネットにも同様の情報が無料ですが、ネットの情報は10年後20年後もあるとは保証されていない。しかし、ムック本という形式にすれば、半永久的に情報を残せる。

- ・売れたら、『この発明品が一番売れました 2023年版』や『この家電が一番売れました 2023年版』や『このスマホが一番売れました 2023年版』などラインナップを増やしていけばいい。

- ・趣味性・網羅性が高いものなので、電子書籍のバックナンバーが売れ続ける可能性は高い。

- ・人間が存続する限り、モノは売れ続ける。なので、需要が無くなることはほぼ無い。

- ・高確率で、マスコミに取り上げられる。

Q. このムック本のデメリットは？

A. 大手出版社が参入してきたら、はい、たぶん負けます。でも、才気ある人が経営者なら、大手を蹴散らせるでしょう。蹴散らせる自信がなかったら、ムック本がある程度売れた段階で、他の出版社に権利を売却するといいでしょう。

Q. このようなムック本が、なぜ今までほとんどなかったのか？

A. このようなムック本はあまり需要が無かったが、場所を取らない電子書籍の登場で、潜在需要が掘り起こされたのだと考えるべきです。

Q. なぜ、お前（幻想まじない師・ペンネーム）がやらないのか？

A. これの答えは簡単です。ぼくは重い精神病を患っているの、起業のストレスに耐えられないのです。

Q & Aは以上です。

◆幻想まじない師の経歴

1986年、18歳の時に、「あれ？ 『売ります・買います』だけの雑誌を作ったらメチャ売れるんじゃないか？」と思いついて、友人数人に「一緒に会社をおこさないか？」と相談するが、そのとき友人たちが無反応だったため諦める。

（アイデアがほとんど同じ雑誌『じゃまール』が発売されるのが1995年です。ぼくは『じゃまール』に9年先行していた）。

惜しいことをした。実行して成功していたら、一生遊んで暮らせるお金が手に入っていただろうに……。

20代でメンヘラちゃんになる。再起不能。

時折ビジネスのアイデアが浮かぶ。が、メンヘラの身では実行不可能なので、「こんな会社を作ったら面白いだろうなあ」と妄想して遊ぶにとどめる。

近年は、趣味のファンタジー小説を書いています。

◆注意点

ぼく（幻想まじない師）は、このペンネームを一瞥してもわかるように、ネーミングセンスが壊滅的にありません。

ぼくにはネーミングセンスが破滅的に無いことだけは知っておいてください。

というわけで、このアイデア、勝手に使っていいですよ。

またビジネスのアイデアを思いついたら、このブログに書きますね。

（このブログ、いったい何のブログなんだろう？）

おわり

2024年1月23日

その2

ビジネスのアイデア、無料であげます2！！！！

さて、ぼくの怪しいペンネームはさておき、またビジネスのアイデアを思いついたの
で、ブログで公表します。

このアイデア、無料で使っていていいですよ。

さて、そのアイデアとは.....

『スキスキTube』

です。

よく聞きますよねえ、
「高齢の親がYouTubeの変な動画にハマって、極右（または極左）思想になって
しまっていて困っている」
って。

YouTubeは動画を見ると、傾向が同じ動画をおすすめしてくるので、これで良
いこともあれば、困ったことも起きます。

良いことは、「ほう、この切り込み方は面白い」という面白い動画に出会えること。

悪いことは、同じような動画ばかり見て、思想的に染まってしまうこと。

ぼく（幻想まじない師）は、まだ、「こういう動画ばかり見てるのは良くないな」と
ブレーキがかかるものの、あと10年経って判断力が衰えたら分かりません。
そう考えると、他人事ではありませんね。

そこで、YouTubeの動画を、右から左までバランス良くお勧めするサイト、『ス
キスキTube』です。

まとめサイトのような形式で、Y o u T u b eの動画をおすすめし、コメント欄も用意。匿名で書き込めるようにします。

Y o u T u b eの動画は（ほぼ）無限にあり動画の選定は大変だと思いますが、人工知能を使えば、その動画制作者の思想が丸見えになるはずなので、お勧め動画を決めるのは不可能ではありません。

高齢の親にパソコンを買ったら、
「ほら、お父さんお母さん、『スキスキT u b e』をブックマークして」
と流行するような、安心してお勧めできるサイトを目指します。

収入は、広告ですね。

まあ、まとめサイト系は、どれが当たるかは運らしいので、これがお金になるかどうかは保証しかねますが。

..... うん、でもこれは無理筋だな。たぶん、無理だ。
これが大金に化けるとは思えないな。

でも、いちおうブログに書いておきます。

◆幻想まじない師の経歴

1986年、18歳の時に、「あれ？ 『売ります・買います』だけの雑誌を作ったらメチャ売れるんじゃないか？」と思いついて、友人数人に「一緒に会社をおこさないか？」と相談するが、そのとき友人たちが無反応だったため諦める。

（アイデアがほとんど同じ雑誌『ジャマール』が発売されるのが1995年です。ぼくは『ジャマール』に9年先行していた）。

惜しいことをした。実行して成功していたら、一生遊んで暮らせるお金が手に入っていただろうに.....。

20代でメンヘラちゃんになる。再起不能。

時折ビジネスのアイデアが浮かぶ。が、メンヘラの身では実行不可能なので、「こんな会社を作ったら面白いだろうなあ」と妄想して遊ぶにとどめる。

近年は、趣味のファンタジー小説を書いています。

◆注意点

ぼく（幻想まじない師）は、このペンネームを一瞥してもわかるように、ネーミングセンスが壊滅的にありません。

ぼくにはネーミングセンスが破滅的に無いことだけは知っておいてください。

というわけで、このアイデア、勝手に使っていいですよ。

またビジネスのアイデアを思いついたら、このブログに書きますね。

このブログ、いったい何のブログなんだろう？

おわり

2024年2月1日

その3

ビジネスのアイデア、無料であげます3！

さて、ぼくの怪しいペンネームはさておき、またビジネスのアイデアを思いついたの
で、ブログで公表します。

このアイデア、無料で使っていていいですよ。

さて、そのアイデアとは.....

『製造中止コム』

です。

これは、ある商品が製造中止になったら、その情報を乗せるサイトです。

例えば、湯たんぽです。

ぼくは冷え性なので冬は湯たんぽが欠かせません。

最近は充電式湯たんぽなんてものも出てきましたね。

では、充電式湯たんぽが普及しすぎて、プラスチック製の湯たんぽが売れなくなって
製造中止になったらどうでしょう。

そうなったら、「プラスチック製の湯たんぽじゃないとイヤ」という人が悲鳴を上げる
でしょう。

ですが、製造中止コムであらかじめプラスチック製の湯たんぽが製造中止になると
知っていれば、プレミア価格になる前に買いだめすることができるワケですね。

同様に、あるプリンターの純正インクが製造中止になったとします。

どうしても純正インクじゃないとだめ、という人が、それを製造中止コムで知っていれ
ば、プレミア価格になる前に、あるいは商品が市場から消える前に確保できるワケです。

その上で、余裕を持って次のプリンター探しができるでしょう。

そう、製造中止コムは役に立つ。

プレミアム価格になる前に、必要なものを買っておける。

収益は広告収入ですね。

このビジネスのアイデアもあまり儲かりそうもないけれど、でも役に立つサイトになるでしょう。

◆幻想まじない師の経歴

1986年、18歳の時に、「あれ？ 『売ります・買います』だけの雑誌を作ったらメチャ売れるんじゃないか？」と思いついて、友人数人に「一緒に会社をおこさないか？」と相談するが、そのとき友人たちが無反応だったため諦める。

（アイデアがほとんど同じ雑誌『ジャマール』が発売されるのが1995年です。ぼくは『ジャマール』に9年先行していた）。

惜しいことをした。実行して成功していたら、一生遊んで暮らせるお金が手に入っていただろうに……。

20代でメンヘラちゃんになる。再起不能。

時折ビジネスのアイデアが浮かぶ。が、メンヘラの身では実行不可能なので、「こんな会社を作ったら面白いだろうなあ」と妄想して遊ぶにとどめる。

近年は、趣味のファンタジー小説を書いています。

◆注意点

ぼく（幻想まじない師）は、このペンネームを一瞥してもわかるように、ネーミングセンスが壊滅的にありません。

ぼくにはネーミングセンスが破滅的に無いことだけは知っておいてください。

というわけで、このアイデア、勝手に使っていいですよ。

またビジネスのアイデアを思いついたら、このブログに書きますね。

このブログ、いったい何のブログなんだろう？

おわり

2024年2月10日

その4

ビジネスのアイデア、無料であげます4！

さて、ぼくの怪しいペンネームはさておき、またビジネスのアイデアを思いついたの
で、ブログで公表します。

このアイデア、無料で使っていていいですよ。

さて、そのアイデアとは.....

『絶叫CD』

です。

これは、老若男女の絶叫を収めたCD（コンパクトディスク）です。

ほらね、健康な人も、ジェットコースターに乗ったり、お化け屋敷に行って絶叫する
と健康にいいっていうでしょ。

ひょっとしたら、自分が絶叫しなくても、聴くだけで効果があるかも。

プチ断食をすると長寿遺伝子のスイッチが入る的なものかもしれません。

ところで、ジェットコースターに乗れない人や、お化け屋敷に気軽にいけない人はど
うしたらいいでしょう。

ホラー映画を観るとというのが次善の策でしょうが、『ホラー映画は怖くて苦手』という
人もいます。（ぼくです笑）。

それに、ホラー映画が大好きな人でも、毎日観ませんよね。

そこで、老若男女の絶叫を収録した「絶叫CD」です。

CDなら、毎日聴けますよね。

ヘッドホンで聴かないと大変なことになりますが。
(スピーカーで聴いていると、高確率で来ます、お巡りさんが.....)。

このCDを聞いたら、ひょっとして持病が軽くなったりして。

持病がいくつかあるぼくは、最近、YouTubeで、『絶叫マシン』で検索して、ほぼ毎日、絶叫を聴いています。

今のところ、目立った変化なし。

効果あるのかなあ。

通販サイトで検索したところ、このようなCDはないようなので、これは穴場です。
しかも、このCD、絶叫が得意な人を連れてきて録音するだけなので、ほとんどお金がかかりません。

このアイデアは、1ヵ月以上前に思いついていたのですが、このアイデアにはとてつもない弱点があることに気づいて、ブログに書くのをちゅうちょしていました。

弱点その1、小学生・中学生・高校生の子供の悲鳴は録音しない、発売しない。ヘンな趣味の人を引き寄せてしまうかも知れませんからね。

弱点その2、猟奇犯罪の気質を持った人が、このCDを聴いていると、実際に犯罪を起こしてしまうかも知れない。これが大きい。

弱点その2が大きいですね。

猟奇殺人が起きて、犯人の部屋から絶叫CDが複数出てきたらアウト、もう販売できませんね。

医学的に何か効果があると分かったら、販売できるかもしれませんが。

まあ、猟奇犯罪が起きても、ホラー映画は規制されていないんだから、大丈夫かも？
それとも、このアイデア危険？
どっちだろう？

あっ、

「このCDはトラウマを悪化させる恐れがあります。良くない症状が出た場合は、聴くのをやめて医師に相談してください」

の文言を入れるのを忘れずに。

◆幻想まじない師の経歴

1986年、18歳の時に、「あれ? 『売ります・買います』だけの雑誌を作ったらメチャ売れるんじゃない?」と思いついて、友人数人に「一緒に会社をおこさないか?」と相談するが、そのとき友人たちが無反応だったため諦める。

(アイデアがほとんど同じ雑誌『じゃまール』が発売されるのが1995年です。ぼくは『じゃまール』に9年先行していた)。

惜しいことをした。実行して成功していたら、一生遊んで暮らせるお金が手に入っていただろうに……。

20代でメンヘラちゃんになる。再起不能。

時折ビジネスのアイデアが浮かぶ。が、メンヘラの身では実行不可能なので、「こんな会社を作ったら面白いだろうなあ」と妄想して遊ぶにとどめる。

近年は、趣味のファンタジー小説を書いています。

というわけで、このアイデア、勝手に使っていいですよ。

またビジネスのアイデアを思いついたら、このブログに書きますね。

このブログ、いったい何のブログなんだろう?

おわり

2024年4月11日

その5

ビジネスのアイデア、無料であげます5！

今回はいいアイデアが閃きました。

なお、このアイデアが既にあったらゴメンね。
いちおう検索したけど出てこなかった。

さて、そのアイデアとは、

『のり弁ランド』

または

『のり弁ステーション』です。

どんなアイデアかさっぱり分からないでしょう？
でも、読むときっと興味を持つと思いますよ。

まず、住まい探しのようなサイトを作ります。
日本の都道府県を選ぶタイプね。
『アットホーム』や『スーモ』みたいな。

そして、市町村や、最寄りの駅を選択すると、出てきます。
近くのスーパーの「のり弁」の価格が。
もち、写真付きで。

のり弁だけではなく、牛カルビ弁当や、おにぎりなど、多くの食材の値段が分かります。
『のり弁ランド』は、そういうサイトです。

これなら、引っ越し先を選ぶさい、現地に行かなくても、『のり弁ランド』を見れば、
近所の弁当類の値段が分かる。
激安スーパーの近辺は、きっと人気スポットになるでしょう。
実に便利なサイトだ。

「この地区は弁当や惣菜が安いな」とか「この地方にはこんな弁当があるのか」などと、新鮮な発見があること請け合いです。

ところで、どうやってスーパーの弁当類の値段を調べて、写真を載せるのでしょうか。スーパーに協力を依頼する？

いえいえ。スーパーのユーザーに頼むのですよ。

『のり弁ランド』という新サイトができ、ユーザーは自由に弁当などの写真を投稿できる。そうなれば、（特に若者は）ノリノリで写真を提供してくれるでしょう。たぶん、ゲーム感覚で写真投稿を始めるでしょう。

ただし、1アカウントからの投稿は、一日1回に制限しましょう。写真を多数投稿したくて、一度にたくさんお弁当を買って、食べられない分は捨ててしまう、という問題を起こさないために。

断っておきますが、写真は、スーパーの店内撮影はダメですよ。ほかのお客さんの迷惑になりますからね。自腹で買って、自宅などで写真を撮影してもらうのです。

なお、日々の価格変動が大きい、野菜などは当初除外します。毎日、写真を更新していたらあっという間にサイトがパンクしますから。値段が安定している、お弁当などから始めるのです。

それに、野菜には値段のシールがついていないことが多いのですが（大抵バーコードですね）、お弁当はほとんど値段のシールが貼られています。だから、お弁当から始めるのです。

そのお弁当も、値上げや値下げがあったら、写真を再アップ。新商品が出たら、写真をアップ。これでユーザーの心をバッチリ掴めるでしょう。（たぶん）。

しかし、サイトのデータ量が膨大になりそうだな……。

これも広告費でまかなうんだけど、黒字になるかなあ？
でも、いいアイデアだ。
久しぶりに会心のアイデアが浮かんだな。

◆幻想まじない師の経歴

1986年、18歳の時に、「あれ? 『売ります・買います』だけの雑誌を作ったらメチャ売れるんじゃないか?」と思いついて、友人数人に「一緒に会社をおこさないか?」と相談するが、そのとき友人たちが無反応だったため諦める。

(アイデアがほとんど同じ雑誌『ジャマール』が発売されるのが1995年です。ぼくは『ジャマール』に9年先行していた)。

惜しいことをした。実行して成功していたら、一生遊んで暮らせるお金が手に入っていただろうに……。

20代でメンヘラちゃんになる。再起不能。

時折ビジネスのアイデアが浮かぶ。が、メンヘラの身では実行不可能なので、「こんな会社を作ったら面白いだろうなあ」と妄想して遊ぶにとどめる。

近年は、趣味のファンタジー小説を書いています。

◆注意点

ぼく(幻想まじない師)は、このペンネームを一瞥してもわかるように、ネーミングセンスが壊滅的にありません。

ぼくにはネーミングセンスが破滅的に無いことだけは知っておいてください。

というわけで、このアイデア、勝手に使っていいですよ。

またビジネスのアイデアを思いついたら、このブログに書きますね。

おわり

2025年3月14日

おまけ

幻想まじない師のヒミツ！

さて、いつコロナでコロッと死んでしまうかわからない世の中なので、幻想まじない師のヒミツを明かしておこうと思います。

なお、これは、『真理を発見しました』の第2版に入れる予定のものです。

幻想まじない師は（変なペンネーム！）、高校3年生の頃、あることに気づきました。ぼくは1968年生まれなので、1986年頃ですね。

ある日、家で雑誌を読むこと数分、ぼくは、ふと、こう疑問に思ったのです。

「雑誌の『売ります・買います』コーナーって、いつも2～3ページしかないけど、何だろう。もっとページ数があれば、欲しいものを安く買えるのに。もし、『売ります買います』だけの雑誌があったら便利だろうな……」

ハッと思いついたぼくは、すぐに近くの本屋に行くと、立ち読みできる雑誌をすべて見て確認しました。

売ります・買いますコーナーだけの雑誌は、一冊もありませんでした。

ぼくは、家に帰ると、さっそく計画を練り始めました。

「売ります・買いますコーナーだけで、雑誌を作る。その会社を作る。特許は取れないから早いもの勝ちだ。月刊がいいか、隔週刊ぐらいが妥当か。雑誌が売れて、他の出版社が参入してきた時点で、会社ごと高く売る。これで、一生遊んで暮らせるお金が手に入るはずだ」

こうしてぼくは、ほぼ完璧な計画を作り、友人2人にこう持ちかけました。

「売ります・買いますコーナーだけの雑誌を作る会社を一緒におこさないか？　月刊か隔週刊で。雑誌の名前は、『いい情報が芋づる式に手に入りますよ』ってことで、POTATOがいいけど、これはもうあるから、『IMO（イモ）』って雑誌名はどうか？」

みなさん。友人2人がどういう反応をしたか、想像できますか。

しばらく、考えてみよう。

さて、答えです。

ぼくの提案を聞いて、友人2人はまったくの無反応でした。

これは意外でした。「そんなの売れるわけないよ」と反論が来たら、説得する自信はありましたが、よりによって無反応。これにはどう反応していいかわからないから質が悪い。

でもまあ、お互いに、高校3年生でしたからね。これは仕方ないか。

(ぼくの知人に言っておきます。「ああ、アイツか」とわかって、ぼくの実名をネットに書かないでください。個人情報ですからね。お願いします)。

友人の少ないぼくは、家族を巻き込んで出版社を作る計画も考えましたが、家の資産が無くなる前に雑誌が売れ出さないと、一家破産です。

ぼくは、泣く泣く、このアイデアを捨てました。

ぼくのアイディアをパクったかのような、雑誌『ジャマール』が登場するのが、9年後の1995年のことでした。

この雑誌は、バブルが弾けた日本に、一大旋風を巻き起こしました。

そして、「個人による中古品の売買」という形態は、現在でも大流行中です。

ぼくは、9年、時代に先行していました。

雑誌『ジャマール』2号を手にして(1号は買いそびれた)、ぼくはこう思いました。「なるほど。ぼくは、天才のなりそこないだったか」と。

だからぼくは、ホリエモンに嫉妬したことは一度もありません。ホリエモンが大金を持っていることに嫉妬したことは何度もありますが、彼の成功に嫉妬したことは一度もないのです。

ホリエモンは一生懸命、頑張った、ぼくは頑張らなかった。

そして、ホリエモンは、ぼくより少し運が良かった。

それだけの差です。

(ちなみに、ぼくはホリエモンはあまり好きではありません。わかりやすい例として出

ただけです)。

そんなぼくが、真理を発見した時は、とても有頂天になりました。ほんとうに舞い上がっていましたよ。映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』51 分頃の、ドグ博士のようなテンションでした。

ですが、「まあ、天才のなりそこないのぼくなら、真理くらい発見できて当然だな」とすぐに落ち着きました。
(ぼくが発見した真理は仮説の段階です。興味のある方は『真理を発見しました』でググってください)。

とにもかくにも、ぼくは雑誌『IMO』を創刊しなかったことで「天才起業家」になりそこない、『真理を発見しました』を放置したことで「天才哲学者」になりそこない、かくて、「天才ファンタジー作家」になるチャンスを得たわけです。

普通に考えて、「天才起業家」兼「天才哲学者」兼「天才ファンタジー作家」なんて、無理に決まっていますもんね。

あのアインシュタインだって、趣味のヴァイオリンはおそらく素人レベルでしょう。聞いたことないけど。

IMOから真理の間も、少しはありましたよ、アイデアの湧くことが。

1990年代の中ごろ、トールキンの『指輪物語』を読んでファンタジーにはまったぼくは、ファンタジー専門の書店をつくる夢をしていました。

それを実行していれば、ハリー・ポッターの新刊が出るたびに、大行列ができていたことでしょう。ファンタジー専門書店のブックカバー欲しさにね。

いまでも、ビジネスのアイデアが、ふっと湧いたりもするけれど、まあね、障害者であるぼくは封印しています。

激しい競争を勝ち抜く、心と体が足りていないのです。

まあ、ひとつアイデアを書いちゃうと、『失敗談コム』のアイデアです。

だれしも、ひとつやふたつ、恥ずかしい、実名では書けない失敗談があるはずです。もちろん、ぼくにもありますよ。

そこで、匿名で書ける失敗談コムです。

例えば、「初めてパーティーに誘われた。恥ずかしい失敗をしたくない。どうしたらいい

い？　そうだ失敗談コムで予習をして、先人の失敗に学ぼう」って感じですね。

ネットを漁れば、いくらでも失敗談はヒットしますが、欲しい情報が上位に来るとは限らない。

そこで、このサイトが役立つ訳です。

人間、生きていて失敗しないなんてことは絶対にありません。人間は失敗する生き物なのです。

逆に言えば、人間が減びない限り、失敗談コムの需要はあるということです。

数年前、あるサイト運営者に、「この『失敗談コム』のアイデアあげます」と手紙を出したのですが、実現されていないようなので、これを読んだあなた、早いもの勝ちです。このアイデア使っていいですよ。

大ヒットするかどうか、責任は負いかねますが.....。

なお、「失敗談コム」は、ぼくがメンヘラになってからのアイデアなので、あまり自信がありません。

(なお、「失敗談コム」は、嘘の書き込みやステマ、反社会的な書き込みなどを定期的に削除しないと確実に訴えられるでしょう。気をつけてください。管理が大変そうだ)。

それにしても、幻の雑誌『IMO』といい『失敗談コム』といい、ぼくはネーミングセンスだけは絶望的に無いな。

というわけで、幻想まじない師のヒミツ、それは、ぼくが「天才のなりそこない」であり、現在は、「ファンタジー作家」のたまごなのです。

(三人称書きづらい。一人称のアイデアを先に書けば良かった)。

それにしても、マイケル・サンデル教授の『実力も運のうち』を知って、「やはりそうか。運に恵まれないと、どんなに優れたアイデアが湧いてもダメか」と、妙に納得した今日この頃です。

『実力も運のうち』は買ってあるので、いつかは読みます。が、『ホモ・デウス』とか読んでない本が、どんどん溜まっていく.....。

とにかく、

世の中、運ですよ。

あまり運に恵まれない、幻想まじない師の秘密でした。

おわり

2023年2月

ビジネスのアイデア、無料であげます！

著 者 幻想まじない師

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
